

巻頭言

今年の仙台の冬は雪が多く寒さも厳しい冬ですが、先生方におかれましてはお変わりなくお過ごしのことと存じます。

ニュースの発刊が遅れ、新春のあいさつが今頃になってしまいましたことをご容赦ください。

年次報告会でも申し上げましたが、教授就任から5年が過ぎ、学内・関連病院の基盤も整ってまいりました。次の5年間は国内での基盤作りの時期と考えております。研究・臨床・学会、社会活動すべてにおいて東北大学血液免疫科の存在感を高めていきたいと思っております。4月からは、優秀な新人を迎えることができる予定であり、後進の育成についても尽力していきたいと考えています。

本年もよろしくご指導・ご支援のほど、お願い申し上げます。

記；張替秀郎



壺 血液免疫科新年会

平成25年1月26日メルパーク仙台にて恒例の血液免疫科年次報告会新年会が開催され、大雪の悪天候にもかかわらず46名の先生方に参加して頂きました。医局行事報告、学位取得報告の後、石井智徳先生より、医師主導治験「難治性SLEに対するボルテゾミブ療法の有効性安全性検証試験」「難治性潰瘍を伴う強皮症、混合性結合組織病、全身性エリテマトーデスに関する多施設共同臨床研究」について、石澤賢一先生より今年度より設置された「臨床試験推進センター」についての報告が行われました。引き続き張替秀郎先生より「血液免疫科の展望と目標」と題して、教授就任後現在まで5年間の総括として学内、関連病院基盤の確立、次の5年の国内基盤の確立、さらに次の5年の国際的基盤の確立への展望についての解説が行われました。続いての新年会では遠方よりお越し頂いた柴田昭先生、三浦亮先生をはじめとする御来賓の先生方より近況報告をしていただき盛会のうちに終わることができました。今年も血液免疫科とOBの先生方のますますの御発展と御健勝を祈念したいと思います。

文責；藤井 博司

式 医局説明会

去る平成24年11月20日医学部学生対象の血液免疫科医局説明会が開催されました。例年他の医局では開催されているイベントかも知れませんが当教室は今回が初めてであり、当日はたして学生さんが来てくれるのかどうか不安な中での開催でしたが、当日20人を超える医学生の方々が来てくれました。一次会は医局にて、ワインを片手に主に高次修練の説明を行い、2次会は焼き肉屋に場所に移しての懇親会が行われました。学生さんも血液病、免疫病の展望、血液免疫科医師としてのキャリアなどについて熱心に話に耳を傾けてくれ、我々医局員も楽しいひとときを過ごすことが出来ました。

文責；藤井 博司

参 研究紹介 其の一

今号より何回かに渡り、当科で行っている基礎研究を紹介させていただきます。第一回は藤原亨先生です。

私は現在、①赤血球造血と鉄・ヘム代謝、②難治性血液疾患発症機序の解明、のテーマを中心に研究を進めております。以下に内容を紹介させていただきます。

①赤血球造血と鉄・ヘム代謝

鉄はほぼ全ての細胞において、分裂・増殖や呼吸などに必須の金属元素です。その鉄を最も必要とするのは赤血球であり、体内鉄の70%は赤血球中ヘモグロビンのヘムとして存在しております。赤血球において、鉄代謝及びヘム合成は密接に関連し合いながら緻密に制御されており、これらの遺伝子の変異により鉄芽球性貧血に代表される難治性の貧血を発症することが知られております。現在、in vitroにおける鉄芽球及び鉄芽球性貧血マウスモデルの作製、臨床例の解析を通じて、本疾患の病態解明、診断・治療法の確立を目指しております。

さらに私たちは、赤血球分化に重要である転写因子GATA-1の標的遺伝子をゲノムワイドに明らかにしました。GATA-1は、Scl/TAL1、LMO2、LDB1、ETO2と呼ばれる他の転写因子もしくは共役因子と複合体を形成していることが知られており、これらの因子がGATA-1による遺伝子発現制御に影響を及ぼしていると考えられております。私たちは本複合体に着目し、赤芽球関連遺伝子の発現制御機構に関して解析を進めております。

②難治性血液疾患発症機序の解明(再生不良性貧血、MonoMAC症候群)

転写因子GATA-2は造血幹細胞及び間葉系幹細胞の機能に重要な役割をもつ転写因子ですが、再生不良性貧血においてはこの両者における転写因子GATA-2の発現が低下し、造血細胞の減少と脂肪髄という二つの異常形質をもたらすことを見出しております。現在、再生不良性貧血におけるGATA-2の発現低下の機序を明らかにすることを通じて、新たな治療法の開発を目指しております。

また近年、単球減少症を中心とした免疫不全症の先行後に、骨髄異形成症候群(MDS)及び急性白血病(AML)を発症するという特異な臨床経過を呈する症例において、GATA-2の先天性変異が同定されました(MonoMAC症候群)。現在のところ、免疫不全症、MDS/AMLへの進展に寄与する分子学的機序は不明であり、疾患iPS細胞の作製、全ゲノムシーケンズを用いた自験例の解析を通じてMonoMAC症候群の病態解明を目指しております。

四 平成24年度血液免疫病セミナー 総括

毎年恒例の血液免疫病学セミナーを去る平成24年11月17日、18日に秋保温泉ホテルニュー水戸屋にて開催致しました。

今回は、研修医の先生方に、実地診療で使える基本的な知識と最先端の情報を提供させて頂くとともに、血液免疫疾患の診療の実際をワークショップ形式で体感して頂くことをコンセプトと致しました。プログラムは以下の通りです。

11月17日(土)

12:00-12:10	Introduction
12:10-12:20	Opening remarks (張替)
12:20-12:50	Clinical pearls -1 「血算トリビア」 (市川)
12:50-13:20	Clinical pearls -2 「膠原病診断入門」 (中村)
13:30-14:00	Meet the expert -1 「悪性リンパ腫」 (石澤)
14:00-14:30	Meet the expert -2 「自己免疫疾患の臨床」 (石井)
14:40-16:00	Case conference -1 (ワークショップ) (チーフ：市川)
16:10-17:30	Case conference -2 (ワークショップ) (チーフ：白井)
18:00-18:45	Special lecture 「転写因子から分化システムと病態を理解する挑戦」 (生物化学分野 教授 五十嵐 和彦 先生)
19:00-	夕食, 懇親会

11月18日(日)

8:00-9:00	朝食
9:30-9:40	Closing remarks (張替)
10:00	記念写真撮影, 解散

“Clinical pearls”では、血算・血液像の読み方から血液疾患の考え方、自己抗体から自己免疫疾患の考え方について、アンサーパッドを用いたクイズ形式でレクチャーを行いました。明日から使える実践的な知識を得て頂けたのではないかと思います。

“Meet the expert”では、石井先生から当科独自の治験の紹介も織り交ぜながら自己免疫疾患の最先端についてのレクチャー、石澤先生からは悪性リンパ腫診療のglobal standardについて、歴史も織り交ぜながらのレクチャーを頂きました。それぞれの領域の最先端領域の話をも専門家の先生から直に聞くことで、生きた知識を得て頂く機会になったと思います。

そして、新企画である“Case conference”では、参加者を5つのグループに分け、血液疾患と免疫疾患それぞれ1症例について段階的に提示し、検査の方針や治療方針についてグループディスカッションと発表を繰り返し進行了ました。血液疾患では不明熱の状態から悪性リンパ腫の診断に至った例について提示し、不明熱の診かたから、悪性リンパ腫の治療までのステップを討論して頂きました。全身状態不良であった患者が、リンパ腫の診断に到り治療を行うことで元気に退院されたという流れで、血液疾患診療の一つの醍醐味を味わって頂くことができたのではないかと思います。免疫疾患では様々な合併症を呈した血管炎の症例を提示されました。複雑で難しい症例ながらその一つ一つのステップを丁寧にディスカッションすることで、免疫疾患診療の奥深さを体感頂けたのではないかと思います。

最後に特別講演として、生物化学分野の五十嵐和彦先生に御講演頂きました。血液免疫科の研究領域においても欠かすことのできない転写因子について、最新の知見を交えて分かりやすくお話頂き、スタッフも真剣に拝聴しておりました。

夜は美味しいお食事とお酒とともに、スタッフ、研修医、学生皆入り混じって真面目な話からそうでない話まで、様々な話題で遅くまで盛り上がりました。各病院のスタッフ、研修医と楽しく交流ができることも、本セミナーの素晴らしいところだと思います。

今回は特に多くの研修医、医学部生の方々に参加頂き、盛会のうちに終えることができました。手前味噌で恐縮ですが、参加頂いた方々の評判も上々であったようです。今回は私も企画立案の段階から参加させて頂きましたが、とりわけ“Case conference”は、私と白井先生で以前から温めていた企画でもありました。初の試みであり、どのような形になるか不安もありましたが、皆様のご協力で滞りなく進行し、活発な討論とともに成功裏に終わることが出来たと思います。この場をお借りして、今回のセミナーに参加頂いた方々、ご協力ご助言頂いた全ての方々に厚く御礼申し上げます。最後に来年度も有意義で楽しいセミナーとなることを祈念し、平成24年度血液免疫病セミナーの総括とさせて頂きます。

文責：市川 聡

五 松焚祭



2013年1月14日に血液免疫科有志+心優しい学生有志にてどんと祭(松焚祭)の裸参りに参加し大崎八幡宮に参拝いたしましたことを報告します。寒いのが苦手な私にとってどんと祭自体、小学生以来の二回目でした。まさか参加の形で戻ってくるとは夢のような人生です。私はとてもお祭り好きな男ですが、しかし、それは花火を見て浴衣を着て音楽が遠くから聞こえて暑いね〜とうちわを扇ぐといったお祭りです。どんと祭に参加表明した時は、正直、どんと祭めんどくさい、と思ってました。

当日は寒かったです。お天気は今年度最大降雪を記録しているまっ最中でした。がしかし、雪景色が大変美しく、日本的な空気感がただよい幻想的でした。紛れもなく priceless memory となったのです。私見ですが、どんと祭は降雪の日ほど、オススメではないかと思われました。

どんと祭は露出度が高いので皮下脂肪を落として臨もう、と思っていました。しかしそれに失敗したおかげであまり寒さを感じず、かなりの予備能を残して遂行できたようです。医局に戻ったあとは打ち上げということで、おでんと焼酎お湯割りその他でとても暖まりました。末筆ながら全医局体制でどんと祭参加を支えていただき大変有難うございました。

文責;那須 健太郎(写真 中列 左から4番目)